

高山 : なんと子どもたちが保護者会に参加してくれます。

今日は、みんなよろしくね。

尾木 : よろしくね。尾木ママよ。

高山 : さあ、今日はママに言いたいことがあるんだよね。

子どもたち : はい！



悩める保護者たちが集い、本音をさらけ出す「ウワサの保護者会」。

今日は、母に言いたいことがある娘たちも参加！本音をぶっちゃけます。

お題はズバリ！「母に言いたい！娘のホンネ」。

【今回のホゴシャーズとその娘さん】

■ゾウ (母) : みくさん (小5)

■ヌー (母) : あおいさん (小5)

■ラッコ (母) : みなぎさん (小5)

■マロン (母) : つぐみさん (中1)

■トマト (母) : まほさん (中1)

■アネモネ (母) : ゆいなちゃん (中1)

高山 : マロンさん、どうですか？今のお気持ちを教えてください！

マロン : えー…「あれっ？不満あるの？」みたいな。初っぱなからそんな感じなんですけど…。

尾木 : ふだんは言っていないのよ。

高山 : 苦笑されている、ゾウさんはいかがですか？

ゾウ : 何を言われるのか。怖いですね。ドキドキしています。

高山 : ヌーさんもちょっと驚いているようですが…？

ヌー : そうですね、ちょっとVS (バーサス) な感じですね、はい。

尾木 : 女同士で、わかり合えるからこそ、バトルがあるのよ。すれ違いもあるの。これをみるのが、男は楽しいの (笑)

というわけで、中1ガールズ6人が「母へのホンネ座談会」を緊急開催!!!



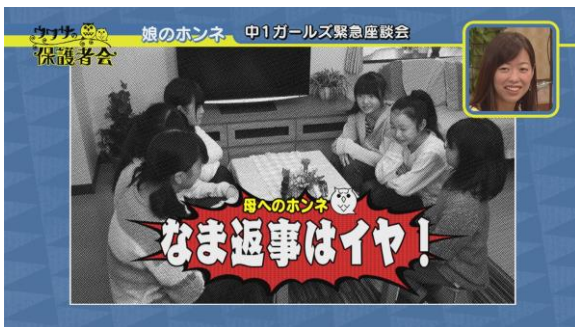
まず飛び出したのは、いつも感じている、母への不満あれこれ。

つぐみ：なま返事！

ずっとスマホとかいじっていて「何日の件どうなった？」とか言ったらね「へーあーうん、そこ置いといてって」。

ゆいな：今日なにになにがあったよ、席替えしたよ、って言っても、今忙しいから言うなって…。

つぐみ：うちのところは、聞いているふりして聞いてないから！



「なま返事はイヤ！」ちゃんと話しをきいて。つづいては…。

つぐみ：「1時間前に起きなさい」って言われたから、とりあえず2時間前に起きたら、1時間前にお母さんが起きてきて「早く用意しなさい！」って言われたから、早く用意して待っていたら、まだお母さんが化粧してなくて！

ゆいな：化粧が長いんだよね。

友人：化粧、何分？

ゆいな：30分以上。

友人：ながっ！

ゆいな：結局、お母さんが遅いじゃんと言っても「しかたないでしょ。化粧に時間がかかるんだから」って…。



早くして、って言うわりに、自分の化粧が長い！
お次は・・・？

つぐみ：勉強しなさい！って、よく言われるよね。

友人：かなりある！

ゆいな：勉強しろ、勉強しろ。100点じゃないと持ち帰らないでって！

友人：怖い！



勉強、勉強って、うるさすぎる！

高山：化粧が長いってところは、皆さん、大笑いされていましたね。

ラッコ：子どもが大人になったら、わかるんじゃないですか？

尾木：大人になったらわかるか(笑)

高山：つついマロンさん、なま返事をしちゃうと？

マロン：忙しいんですよ。何か集中していたり、何か一生懸命考えたり調べたりしている時に「お母さんになにに…」って言われて「ん？何か言った？」みたいな。

あとでもう1回「さっき何て言ったかな？」と聞くと「もういい。」とか言うんです。

つぐみ：でも、忙しいのなら「今忙しいから後にして。」って、ちゃんと言ってほしいです。

マロン：そりゃそうね。

高山 : そりゃそうですね。

ヌー : 手を止めて「なーに？」と、聞けばいいんですね？

マロン : でもね、それは無理かも。頭をこっちに使っている時に、親もちょっと切り換えられない。

ヌー : 「忙しいの。ごめんね。」って言えばいいんですね。一言ね。



高山 : 勉強しなさいって言われがち？比較的言われる？

(子ども一同うなずく)

高山 : その中でも、100点以外はって…、アネモネさん？

アネモネ : それは、目標を高く持ってもらいたいな、という気持ちです。

ゆいな : 95点でもいいかなって思って…。

高山 : マロンさんはどうですか？

マロン : 「勉強しなさい。」とか命令形にならないように、今日宿題まだやってないなと思ったら「今日宿題出たんだっけ？」みたいな言い方をしています。

「今日何時に寝るの？」「明日朝何時起きなの？」とか、ちょっと周りから追いつめていくというか…。宿題しなさいとは言いたくないんですよ。自分で考えるように、行動を起こすようにもっていったなと思っています。

高山 : 追い込み漁ですね。

マロン : そんな感じですね。

続いて集まってくれたのは、いつも言いたいことをグッと飲み込んでいる、という3人。
その共通点は、お姉ちゃんであること。

あおい : 弟の世話ばかりだよね。

みく : 妹が1年生の頃は、私が何度か面倒を見てあげていた。

学校の準備や身支度を手伝うなど、いつも「お姉ちゃん」として頑張っている。

そんな3人が「お母さんへの本音」を初告白！

あおい：月に1回ぐらい、お母さんと一緒にお出かけしたい。2人きりになりたい。

2人：あるある。

つむぎ：妹がちょっと…家出してほしい。

あおい：つまり、2人きりになりたいって意味でしょ？みんな同じだね。2人きりになりたいんだね。



これまで言えなかった思い、それは「私と2人だけの時間を作ってほしい！」

2人きりになることはあまりない？

つむぎ：ほとんどない！

あおい：ない！1年に1回ぐらいしかない。

つむぎ：1年に1回もあるの！？

でもどうしてそんなに、2人の時間がないの？

みく：いつも、妹がずっとお母さんにくっついていて、お店とかでもお母さんの隣だし、お風呂も一緒だし、寝るときもなんか同じ布団だし、みたいになっている。どれだけ、くっついてるんだよ！

あおい：ある、ある、ある！そういうのある！

みく：こっちもやってよ！みたいな。

あおい：うちは、隣がいつもお父さんだから。いつも、レストランとかでもお父さんが隣。

つむぎ：いつも我慢している。それで爆発しちゃうの！

2人：爆発！？怖い！

さらに、昼間だけでなく、夜にも秘めた想いがあった…。

みく：できるだけ、寝る時こっち向いてって思う。できるだけくっつかせて、みたいな。

つむぎ：たまには、こっちを向いてほしい。

あおい：いつも弟とか妹のほう向くよね！だいたい…。

みく : たまに手をつないで一緒に寝るんだけど、いつだったか、なんかパッと手が離れて…。えっ、みたいなの。もっと、つないでよーみたいなの。まだ起きているよって…。
あおい : ある。だからうちは、もう、グューって握力すごい限界まで出して、グューって握る。そうすると痛い痛いつて起き出す(笑)



ガマンをする度に心に溜め込まれていく本音、言えないままで大丈夫？

あおい : 紙に嫌なことを書いて、その紙を、グシャグシャするとスッキリします。

みく : うん、それわかる。私は日記に書いている…もう、ウンザリって…。

こんなに本音が積もり積もっているのに、どうして「2人の時間がほしい」って言えないの？

つむぎ : 申し訳ない…。

あおい : 遠慮して言えない。

みく : もうお姉ちゃんってなっちゃっているから。抱っこして、抱っこしてみたいなのも恥ずかしいから難しい。

あおい : 夢のお願いみたいなの。魔法みたいな感じ。

つむぎ : 現実じゃないって感じ。

高山 : お姉ちゃんだからつらいというかね、複雑な悩み、言えない本音というのがあるんですね。泣いちゃった…。

(みくちゃん泣きだす…)



高山：みくちゃん、言いたかったんだね。そっか、そっか。

ゾウさんは、とてもビックリされていたようでしたね。ずっと体を、のけぞっていらっしやいました。ふだん聞いたことがない？

ゾウ：ある時に、ママにも甘えたいんだって言われたことがあって、そのときにハッと思ったので、わかってはいたんですけども。実際、なかなか難しくて…。

高山：寝ている時のことも？

ゾウ：ああ、でもそれはちょっと言い分があって。

一緒に手をつなぐのはすごくいいのですが、みくが本当に寝付きが悪くて…。こっちは疲れて寝ているのに、いつまでたっても動いていて、もういい加減に寝かせてくれってなって、パッと手を離しちゃう。

高山：それは意図的に？

ゾウ：すいません、意図的です。

高山：ヌーさんも、驚いていらしたようですが…。

ヌー：下の子と同じように、やっているんですけど、まだ足りなかったかな？できるだけ一緒に2人で出かけているのも、1年に1回じゃないんです。

高山：年に1回って、七夕みたいなことを…。

ヌー：私は習い事しているんですけど、春休みや、夏休みはそこへ一緒に行く…。

あおい：でも、周りの人が多くいるじゃん。

ヌー：ああ、2人きりがいい？ああ、そっか。そこは気がつかなかった。

高山：2人きりになると、どんな気分になるんだろう？

あおい：私だけを見てくれてるって風に、幸せな気分になる。一緒にいられればいい。

ヌー：すごい、恋人みたい。私は愛情表現がちょっと下手かな。

外国のようにハグして、大事だよとか、そういうふうにはできないから。

ラッコ：帰ってきた時に、上の子からただいまって、やるようにはしていますね。

高山：上の子からってというのがポイント？

ラッコ：そうですね、弟ではなく、みなぎって。次に弟っていうのをずっと徹底してやっていますね。

高山：みなぎちゃんはママの愛を感じていますか？

みなぎ：あんまり感じない。

(一同笑)

高山：あれ、だって帰ってきたらすぐハグって話しかけど…。

みなぎ：でも、だいたいママ、すぐ上に行っちゃうから。

ラッコ：足りてないのかな？

みなぎ：うん…。

ラッコ：足りない？

高山：ラッコさんのが答えだと思ったら、まさかの「足りてなかった」！

ラッコ：じゃあ、30秒多くしようかな。

みなぎ：いいよ。とにかく、何でもいいから早く帰ってきてほしい。

高山 : 働いていらっしゃるのですね？

ラッコ : はい。だいたい帰るのは、9時10時くらいですね。

高山 : 朝も早く出発をされるのですか？

ラッコ : そうですね。子どもたちが起きる前には出ちゃうので…。

尾木 : それぞれ大変よね。同情しちゃった。

みんな、声に出して言わないとわからないよ。親も一生懸命思っているけどね。

ゾウ : みくに対して愛情を与えてなかったとは思ってはいないんですよ。やっぱり、すごくかわいし。でも子どもって、愛情をどれだけ与えても、いいのかなと思いました。

高山 : みくちゃん、お母さんの声きいて、どう思う？

みく : … (涙)

高山 : また泣いちゃうか。そうか、そうか。

「言いたいことを言い合っています！」という、ラッコさん親子。
娘のみなぎちゃんも、弟をもつお姉ちゃんだ。

パパと弟が出かけたあと…。

ラッコ : ちょっとさ、前髪がさ、前にきちゃうから、切って、前髪！

みなぎ : 嫌だ！



実はこの2人、みなぎちゃんの長い前髪のこと、何週間も前からバトル続けている。

ラッコ : 前髪を切りたくない理由がわかんないの！ママに全然伝わらない。

みなぎ : クラスのみんなが伸ばしているから～。

そういう話しをしてること自体がウザイ、ウザイ、ウザイ！

「ウザイ」がきっかけで、さらにバトルはヒートアップ！

ラッコ：あなたの計算の遅さは、その前髪にあるんじゃないかと思うの。
みなぎ：何の計算？
ラッコ：算数の計算！
みなぎ：面倒くさい…。算数の話しは、今はナシ！
ラッコ：前髪を、ちくちくとお風呂上がりにかきあげながら計算しているから集中力ないんだよ。
みなぎ：ピンしているよ。
ラッコ：してない！私とパパが「前髪！」って怒鳴ったあとで「はいはい」ってやるじゃん。
みなぎ：そういう怒鳴りがウザイの！
ラッコ：でもさ、夜、こうやって前髪を武田鉄矢みたいにかき上げながら…
みなぎ：だから、武田鉄矢ってなにー？
ラッコ：あんたの前髪みたいな人だよ。
みなぎ：知らねーよ。
ラッコ：算数の計算力が…。
みなぎ：だから！算数の話はするなって！ウザイ、ウザイ、ウザイ。

本音をぶつけ合う母と娘の関係。どう思いますか？

高山：みなぎちゃん、遠慮を感じませんでしたね。

（一同笑）

高山：あれ！？髪切った？前髪切ったね。

尾木：どうしてなの？

みなぎ：ママに負けた。

切った前髪を友だちに見せて、前のほうが絶対似合うよって言われたから、なんで切っちゃったんだろう、って…。

尾木：伸ばしているほうがいい？

あおい：伸ばしている子は多い。みんな横に分けたり、後ろで結んだりしている。

尾木：お友だちの中の、流行っていうのもあるでしょ！それも大事だなと思った。

高山：でも、あのやりとりは、開放的だと思いませんか？

ヌー：漫才みたいですね。パンパンパンと。楽しそうです。

高山：どう思った？

あおい：ウザイって、すごいきっぱり言えていい。

高山：なかなかあそこまでは言えないかな？

あおい：いちいち言っていたら、疲れちゃう。

高山：そっち？

（一同笑）

ヌー : 私はウザイって言われたら「お母さんショック！」って「言わないで！」っていう反応するので、たぶん、うちの娘は言えない感じだと思います。「あー悲しい」とかって、そういう時はすごい女優になるんです。

ラッコ : できるだけ会話が続くような返し方をしています。

特に私は、平日仕事で帰りが遅くて、あまり会えないので、できるだけちょっとの時間の会話を長くしていかなきゃと、非常に気を付けています。

尾木 : 今のお話はすごく大事かもわかりませんよね。というのは働いていて、あまり接触がないから、だから、濃密にされるのであって、いつも一緒に、あんな会話をしていたら大変よね(笑)

みなぎ : そういう話をしてくることがウザイ！ウザイ！ウザーイ！

ママと激しく言い合いもするみなぎちゃん。でもなかなか、本音で話しづらいこともある。

それは高学年になって、そろそろ準備が必要なブラジャーの話。

そこでラッコさんは、とある場所で、2人の時間を作った。それは・・・お風呂。



ラッコ : この間ね、見てきたよ。なぎ用の「はじめてのブラ」っていうやつ。

ブラ買いに行きたいんでしょ？

みなぎ : 行かない！

ラッコ : えっ！

みなぎちゃんも本当は気になっているに、ついいつも「行かない！」って言ってしまう。

ラッコ : だって、どうするの？

みなぎ : ブラって手洗いなんだってね。

ラッコ : えっ、そうなの？

みなぎ : なんかマンガに描いてあった。

ラッコ : マンガに…？(笑)

みなぎ : え？で？そのはじめてのブラっていうのは？

ラッコ：かわいかった。かわいかった。ちょっと白に薄いチェックみたいなヤツで。

今度見に行く？行く？ちょっと恥ずかしい？

みなぎ：あなた次第でいいよ。

ラッコ：え、なんで？

みなぎ：見に行くけど、ママの空いている日でいいよ！

好きな男の子のことや、ちょっと言い辛い話も、なぜかここなら本音がポロリ。

ラッコ：うちでは、パワースポットの場所ですね。

マロン：ちょっと話を聞きたいときには、私は無理やり一緒に入っちゃう。

「ちょっと失礼しまーす！」とか言って…(笑)

尾木：失礼されちゃうんだ(笑)

つぐみ：(笑)

高山：つぐみちゃん、そういう時はどう思うの？

つぐみ：なんか話があるのかなって思って、特に嫌がったりはしない。

尾木：1人でも入っても、お風呂に入るとリラックスするじゃない。リラックスしたもの同士だもの。話しやすくなるわよ。

トマト：うちは買い物とか、前を向いて歩きながらいると、結構しゃべりやすいみたいでベラベラしゃべってきます。

マロン：それあるかも。確かに！

高山：まほちゃんは、どう？一緒に買い物に行く時は、話しやすいと感じる？

まほ：同じような会話だけど楽しい。歩きながらのほうが楽しいです。

つぐみ：面と向かって話すとやっぱり気を遣うので…。お互いを見ないで、目を合わせないでしゃべったほうがしゃべりやすいし、会話も弾むような気がします。

尾木：並んで歩くことはいいわね。同じものを見ながら歩くから、次々に話題ができるの。しかも、買い物は目的があるわけですから、話しやすいの。いっぱいしゃべっても、途中で変なおじさんが通り過ぎたら、あー変なおじさんって、話題もできる。

母への本音座談会で、日頃の不満を語り合っていた6人。

その中で、1人だけ、母への不満はないと言い切る、まほさん。

まほ：不満は、本当はない。「やりたい！」って言ったら「やれば？」みたいな感じだから。

ゆいな：へー、いいな。自由がいい。

一方、ゆいなさんは、最近になって「自由がない。」と不満を持ち始めている。

ゆいな：お母さんが服も勝手に買ってくる。

友人：本当はどんな服が着たいの？

ゆいな：こういうさ、キュートなやつじゃなくてさ…。

友人：カッコイイ系みたいなの？

ゆいな：お母さんが、ピンクとかが好きだから。

友人：服もお母さんの趣味で決められているの？

ゆいな：そうそう。

ズボンはいちやダメ、メガネも似合わないからダメ、というお母さん。

筆箱などの文房具も、自由に選ばせてもらえないという。

友人：趣味とかは、さすがに自分のしたいことをしている？

友人：ピアノは？ピアノ。

ゆいな：習い事は、全部お母さんから。

そんなゆいなちゃんが、お母さんに1番伝えたいこと。話すかどうか悩んでいると…。

友人：言っちゃえ、言っちゃえ。

友人：そうだ、そうだ！

ゆいな：そうだね…。

友だちに背中を押され、ついに覚悟を決めた！

ゆいな：看護学校へ行きなさい、っていうけど、勝手に、将来の仕事を、決めないでほしい！

アネモネ：いや、そのとおりだったと思います。私が看護師になれなかったら、看護師になってほしいっていう想いがあって、娘が看護師になるのは夢でもあって…。幼稚園くらいからずっと言っていたような気がします。

高山：ちなみに今日の装いは？

アネモネ：これは自分で決めた…。

ゆいな：これはお母さんが…。自分では決めてない。

アネモネ：これとこれ出してきて、どっちがいい？みたいな感じで。

高山：2つとも、お母さんが選んだものが選択肢なのですね？

アネモネ：そうですね。

どうしてもやっぱり女の子なので、かわいい格好してほしいし、かわいってみんなに思われるようにしてほしいってという思いがあって。やっぱり洋服とかもこれが似合うんじゃないかなと思うと、ついつい買ってきて、絶対似合うよ、着なよって言うってしまう。

高山：ゆいなちゃんは、ちょっとは自分で決めたいとか、やりたいようにしたいって思いがあるのかな？

ゆいな：うん。

マロン：だんだん、ちょっとずつずれてくるんだよね。こうあってほしい娘が、自分のいろんな方向性が出てきて、母親の考えとずれてくるんですよ。

尾木：中学生ぐらいになったら、みんなカッコイイ系だとかワイルドな感じだとか、音楽の傾向も変わってくるのよ。全部そう。だからそれはもう、子どものかわいっていかわいいのから、大人の価値観になろうとしているんだもん。

アネモネ：やっぱり、だんだん最近、1人で好きなことをやりたいって言うことが多くなってきていますね。

高山：トマトさんはどうですか？

トマト：うちは、いままで結構意見のバトルをしてきたので…。

ケンカになった時に、まほに、もっと私を褒めてほしいってということと、ママが怖い、怒らないで話しをしてほしいってように意見をされたんですね。それを初めて聞いた時に、皆さんみたいに、愛情が全然伝わってなかったんだなあって感じました。

バトルも洋服から始まったんですけど、洋服に対しても自分の考えが出てきたんだなあってことを感じて、だんだんとバトルしている間にほかのことに対しても、自分の考えが出てきたんだなあと感じ始めて、なるべく、自分の好きなものを選び選ばせています。

高山：まほさん、辛い時期もあったんだね。今、不満は？

まほ：ありません。

一同：素晴らしい！

尾木：自分で好きなように、好きなようにというのは悪い意味じゃなくて、自分で決定して、自分に責任をもたせる。失敗したらそこから学びなおせばいいわけ。そこで獲得したものがもの凄く人生に生きてくるの。子どもがこうやって選んでいくのを、親はサポートする。子どもの後ろに回ってサポートするみたいな立場、ポジションをとれると親子関係はうまくいくと思うな。



ウワサの保護者会 第3回「母に言いたい！娘のホンネ」



Eテレ 木曜日 夜 10 時 25 分～10 時 49 分
土曜日 昼 12 時 00 分～12 時 24 分 (再)

高山 : 今、1 番これ解決したいなって思うことある？

ゆいな : 怒るのはいいけど、もうちょっとだけ、ちょっとだけ優しく怒ってほしい。優しく怒って。真顔じゃなくて、ちゃんと笑顔になってほしい。

アネモネ : 娘が何を考えているのかわからない部分があって、ちょっと悩みつつあったので。そういうふう考えたんだって、今回初めてわかって、私も考えるところがありますね。

高山 : ゆいなちゃんどうだった？今回？

ゆいな : 言えないことを全部言えてよかったなって思う。

一同 : よかった (拍手)

これからのウワサの保護者会は、子育てにまつわる様々なテーマでお送りします。お楽しみに！
みんなの知恵が集まるホームページも必見！

(終)